

学校教育目標	『つばさひろげ、自分で自分の生き方を切り拓いていく鳥が丘の子』			
	知 問題意識をもち、進んで取り組み、最後までやりぬく子を育てます。			
	徳 人に対して、思いやりの心をもって行動できる子を育てます。			
	体 心や体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます。			
	公 地域や身近な人々とのかかわりを通して、共に生きていく力を育てます。			
開 コミュニケーション力を培い、社会への視野を広げます。				

学校概要	創立 43 周年	学校長 松崎 由里子	副校長 齊藤 哲之	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 3
	児童生徒数:	566 人	主な関係校: 領家中学校			

<p style="text-align: center;"><b>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>領家中 ブロック</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b></p>
<p>&lt;主体的に学ぶ力&gt; &lt;コミュニケーション力&gt;</p>	<p>領家中学校 西が岡小学校 鳥が丘小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康的な生活習慣と主体的な学習習慣を身に付け、自分の力を伸ばそうと努力する子ども【知・体】</li> <li>■ 人のかかわりや体験を通して自他の良さに気づき、豊かな心情を育む子ども【徳】</li> <li>■ 地域を大切にし、未来をきり拓く子ども【公・開】</li> </ul> <p>○小中学校合同授業研究会や、年間を通しての担当者による研究会、3校校長や担当者による推進会議を開催し、情報の共有を密に行う。 ○横浜市学力・学習状況調査結果の分析を通して、児童生徒の実態把握と課題改善の推進を図る。 ○授業や行事、児童会・委員会活動、部活動などへの主体的な取組を通して、自らを向上させる力や人間関係力の育成を図る。</p>

中期取組目標	<p>○学校教育目標を実現するために、学校-家庭-地域が一体となって連携、協働しながら安全で楽しい学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に取り組める授業改善を推進し、学力の向上を図ります。</li> <li>・自尊感情を高め、一人ひとりの子どもが自分や相手を大切にしながら、楽しい学校生活を過ごせるようにします。</li> <li>・幼保小連携、小中一貫教育ブロックでの活動を推進し、「鳥が丘のまち」が一体となって子どもを見守る環境整備に努めます。</li> <li>・教職員相互の連携を推進し、業務の効率化を図り、教育活動の充実に努めます。</li> </ul>
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①一単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ②重点研究テーマを「主体的に学び、考えを深め合う子の育成」～豊かな言葉と関わる子を目指して～とし、国語科の時間を中心に自分の考えを相手に伝え、深め合うことができるよう授業展開の工夫をしていく。
徳	道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。 ②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。 ③豊かな体験を通して、相手の気持ちを考え、場に応じて、自ら行動できる力を育成する。
体	健康教育	①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、食育や歯科保健教育を実施する。 ②定期的に「なわとび集会」を行うなど、楽しく体を動かす機会を設定する。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。 ②日々の学習において自分づくりパスポートを活用するとともに、めあてに対するふりかえりの時間を大事にすること、それを伝え合い認め合うことで、自他の成長につなげるようにする。
いじめへの対応		①いじめ・人権にかかわる児童の共有を職員会議の児童の共通理解の場を通じて行う。 ②児童の状況把握をカウンセラーの情報も加えつつ実施する。 ③日常に潜むいじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添う。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となった活動を継続的に行う。 ②適宜教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。 ③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、職員室アシスタントとの連携を密にしながら全職員の組織的な働き方改革につなげる。
地域学校協働活動 (地域連携)		①地域の方々による登下校時の見守り活動について、学校運営協議会で協議をして、安全対策の充実を図る。 ②総合的な学習や、社会科、生活科での学習を通して、児童と教員が地域を知ったり、地域学校コーディネーターを中心に地域の方々と交流したりすることができるようにする。
特別支援教育		①一般学級、個別支援学級問わず、特性のある児童に対する支援方法を職員全体で考えていく。 ②一般学級から、通級・個別支援学級などの特別な支援を要する児童の、外部機関への繋ぎ方や保護者への説明の仕方について学校全体で共有していく。
多文化共生		a
国際教室委員会		
担当		